

平成24年度総務委員会行政視察報告書

総務委員長 山宮留美子

期 間：平成24年10月17日（水）～ 10月18日（木）

視察先及び視察内容

- （1）静岡県地震防災センター：防災・災害・震災対策の取組みについて
- （2）自衛隊富士学校：被災地域の復興支援や被災者支援について

静岡県地震防災センター

地震防災センターの設置目的は、東海地震を想定しての県民に対する啓発と防災に関係する人材の育成。特に、人材育成については、「防災に関する知事認定制度」を創設、推進。

さらに、防災対策の基本は、自助であること。その中でも大切な3つの柱が

- ① 家屋を倒壊させないための工夫をすること
- ② 家の中の家具を転倒させない工夫をすること
- ③ 水や食料を3日分確保しておくこと

この3点を各家庭に徹底するために静岡県では、地震が起きても我が家で暮らす方法として、家庭内DIGを推進。

【DIG】とは

大地震が起きたとき、家の中がどのような状態になるのか、全てのライフライン、電気・ガス・水道がストップしたとき、自宅でどのような生活を強いられるのか。また、そのような時に何を準備しておけば良いのかを各家庭で、絵や言葉で書き示しながら話し合い、行動に反映させていくもの。

【HUG】とは

避難所運営ゲームのこと。

HUG（ハグ）は、避難所のH・運営のU・ゲームのGの略で英語の「抱きしめる」という意味から、避難所において避難所をやさしく受け入れるというイメージで名付けられたもの。

（今回の視察では、時間の関係上、HUG体験はできませんでした。）

【地震防災センター】を視察して

今回の視察では、はじめに小林佐登志センター長より、センターについての概要説明があり、静岡県震災に対する取組みや自主防災組織の活性化を支援するための動き、さらに県民が東海地震や南海トラフの3連動地震に立ち向かうための知識や技術を習得するための教育啓発に力を入れている話を聞かせていただいた。

同センターには、大型液晶マルチディスプレイによる「TUNAMIシアター」やリアルな地震の揺れを体験できる「地震体験コーナー」、最新の防災用品を紹介している「防災用品展示コーナー」があり、担当の職員による熱のこもった説明に、参加者全員が地震の恐さや津波の恐ろしさを学ぶことが出来、今後、いつ起きるか分からない災害に対し、大変貴重な体験をさせていただいたとともに震災対策を進めていく上で、大変参考になる視察でした。

自衛隊富士学校

陸上自衛隊富士学校は、静岡県駿東郡小山町須走（富士駐屯地内）に所在する陸上自衛隊防衛大臣直轄機関のひとつ。

【自衛隊富士学校】を視察して

普段の生活とは、かけ離れた空間の中で、これだけ多くの方が、日夜、国民の安全のため、国民の生活を守るため、そして、災害が起きたときには、誰よりも早く駆けつけ、人々を助ける崇高な使命を持って、日々努力を重ねている姿に感動をしました。

さらに、張りつめた空気の中で、生涯経験の出来ることではない、戦車にも乗せていただき緊張感溢れる視察でした。